

花巻市石鳥谷町

大瀬川史年表

監修

花巻市文化財保護審議会委員

花巻市石鳥谷歴史民俗資料館館長

菊池邦雄

大瀬川活性化会議

西暦	和 暦	逆算	記 事
			大瀬川の縄文遺跡 5000 ・大地渡遺跡(縄文時代中期・竪穴住居跡・平安時代の住居跡)。 ～ ・新山遺跡(縄文時代前・中期)。 4000 ・林遺跡(縄文時代中期)。 ～ ・館山遺跡(縄文時代中期)。 ・田屋遺跡(縄文時代中期末竪穴住居跡と縄文土器)。 ～ ・渡遺跡(縄文時代後期)。 3000 ・弥五郎屋敷遺跡(縄文時代後期～晩期)。
552		1456	・この頃(一説には538年)、仏教が伝わる。
607		1401	・法隆寺が創建される。
710	和銅3	1298	・奈良に都を定める(平城京遷都)。
715	霊亀1	1293	・古事記ができる。
720	養老4	1288	・日本書記ができる。
729	天平年中	1279	・寺伝によれば八重畑の広済寺(曹洞宗)が創立という。
794	延暦13	1214	・京都に都を定める(平安京遷都)。
797	延暦16	1211	・11月 坂上田村麻呂が征夷大將軍となる。
802	延暦21	1206	・坂上田村麻呂が水沢市佐倉河に胆沢城を築く。
803	延暦22	1205	・坂上田村麻呂が志和城を築く。
804	延暦23	1204	・寺伝によれば長谷寺(天台宗)が創立という。 ・八千穂稻荷神社が創建される。 八千穂稻荷神社 祭神 保食神・大山積命・誉田別命 第50代桓武天皇の延暦23年8月、征夷大將軍坂上田村麻呂は陸奥を平定し、国家安穩を祈願するため一字を建て、十一面觀世音を安置し、その臣、瀬川葛丸をとどめ置いて宮仕いさせた。 葛丸は、自分の信仰する保食神・大山積命・誉田別命をその堂内に配祀した。これを八千穂稻荷大明神と称し、瀬川氏の氏神として祀った。 その後数十代を経て、第82代後鳥羽天皇の瀬川清像代、文治5(1189)年、源頼朝は平泉の藤原泰衡を追って、当地方に来て水分村陣ヶ岡に陣した。泰衡は逃れて贅の柵に拠ったが、城将河田二郎に襲殺せられた。 陸奥・出羽を平定した源頼朝は、鎌倉に帰った。その後、瀬川氏は頼朝に降って、本郡を賜り、瀬川伯耆守清像と称し守護することとなった。 その弟瀬川勘右エ門は、神平館に邸宅を構え、八千穂稻荷大明神を邸内に祀った。 第105代後奈良天皇の弘治年中(1555～1558年)、子孫の瀬川彦兵衛は瀬川本城の落城と共に殉じた。『石鳥谷町郷土教育資料』

西暦	和 暦	逆算	記 事
811	弘仁2	1197	・和我(和賀)・稗縫(稗貫)・斯波(志和)の3郡が建置される。稗貫(稗縫)郡の初見。『日本後記』 ・志波城(志和城)が水害をこうむるため移転を上奏し、裁可される。
813	弘仁4	1195	・文屋綿麻呂が紫波郡矢巾町徳田に徳丹城を築く(志波城は停止される)。
836	承和3	1172	・寺伝によれば八重畑の光勝寺(真言宗)が創立という。
850	嘉祥3	1157	・松林寺(天台宗)が創建される(寺伝には仁寿年中とある)。
1016	長和5	992	・当地域は安倍頼良(頼時)の所領という。『紫波町史第3巻』
1051	永承6	957	・前九年の役(源氏と安倍氏との戦い)。 ・安倍道跡(町内西部の街道)。 安倍道 陸奥国の豪族であった安倍氏が全盛の頃(11世紀)、衣川柵と厨川柵とを往来した主要な道路で、平安後期における平泉藤原氏以前の陸上交通路であった。 中央部に道路ができるまでは、先進地域の文化を当地方に導入する道路で、当時の西部開発の道路でもあり、水田開発も初め、この安倍道に沿った西部から次第に東側の地域に延びていったのではないかと考えられる。 石鳥谷町では花巻市湯本境から松林寺の西側を通り、長谷堂の東側から富沢の山中を通して館山(大瀬川館)から一の留付近を通り、大瀬川の山中を通して紫波町片寄の願円寺方面に通じていた。
1062	康平5	946	・安倍貞任が厨川柵(盛岡市厨川)で滅び、前九年の役が終わる。 安倍氏 忠頼、忠良、頼良(頼時)―貞任、宗任、正任、重任、家任、則任、女、女。 『陸奥話記』『安倍道を探る』
1063	康平6	945	・当地域は清原氏の所領という。『紫波町史第3巻』
1081	永保1	927	・源義家、陸奥守に任命される。
1083	永保3	925	・9月 後三年の役が起こる。
1087	寛治1	921	・12月 後三年の役が終わる(清原氏が滅びる)。
1089	寛治3	919	・10月 藤原清衡が陸奥押領使となり、伊沢・和賀・江刺・稗貫・志和・岩手の6郡を領し、江刺郡豊田館に居住する。 ・当地域は藤原氏の所領となる。
1094	嘉保1	914	・藤原清衡が豊田館より平泉に移る。
1124	天治1	884	・8月 金色堂ができあがる。
1126	大治1	882	・3月 藤原清衡が中尊寺を建て、落慶供養を盛大に行う。
1128	大治3	880	・7月 藤原清衡が没する(金色堂内に遺体を安置する)。
1157	保元2	851	・3月 藤原基衡が没する。
1170	嘉応2	838	・5月 藤原秀衡が鎮守府將軍となる。
1181	養和1	827	・藤原秀衡が陸奥守となる。

西暦	和 暦	逆算	記 事
1185	文治1	823	・平氏が滅びる。
1187	文治3	821	・源義経が秀衡を頼って再び平泉に入る。 ・10月 藤原秀衡が没する。
1189	文治5	819	・4月 藤原泰衡が義経の居館、高館を襲撃し、義経が自刃する。 ・7月 源頼朝が藤原泰衡追討のため鎌倉を出発する。 ・9月 源頼朝が紫波町の陣が丘に宿営する。『紫波町史第3巻』 ・9月 源頼朝が平泉を攻め、奥州藤原氏が滅びる。 ・伝承によればこの頃、平泉藤原氏の一族が平泉を逃れ、畑地区に入って居住したという(畑地区の藤原姓には畑と長洞の2つの系統があり、黒沼の長楽寺と志和の願円寺を菩提寺としている)。
1191	建久2	817	・12月 鎌倉幕府ができる。 ・藤原為家(のち広重)が稗貫の領主となる。『盛岡瀬川稗貫系図』 居城は花巻市湯本小瀬川。ただし、稗貫氏の始祖については大和守広重(盛岡瀬川稗貫系図)、三河守為重(仙台稗貫系図)、大隈守盛基(仙台萬城目系図)などの説があって一致しない。下向した年も建久8(1197)年などの説がある。『石鳥谷町史上巻』『稗貫氏探訪』 ・最近の研究では稗貫氏の始祖を武蔵国(埼玉県・東京都)の御家人中條氏とする説が有力である。石橋合戦のとき源頼朝に従った46人の中に中條成尋がいる。成尋は稗貫・和賀の地頭職となり、その子、長男家長は稗貫郡の1部を頼朝から賜わり、弟義季は和賀郡を賜わって、共にその地頭となった。『石鳥谷町史上巻』『いしどりや歴史散歩』 稗貫氏の居城地 小瀬川館(岩手県管轄地誌)、瀬川館(岩手県管轄地誌)、瀬川城(南部史要)、小瀬川城(奥々風土記)、大瀬川館(篤焉家訓)、十八ヶ崎・鳥谷崎城(岩手県管轄地誌、邦内郷村誌、奥々風土記、吾妻むかし物語)、日居城(広隆寺旧記留)等。『石鳥谷町史上巻』 稗貫氏配下の領主 石鳥谷町内に居住したと思われる稗貫氏家臣として八重畑氏(八重畑館)、新堀氏(新堀城、三竹堂館)、関口氏(関口館)、瀬川氏(大瀬川館)、小森林氏(小森林館)、黒沼氏(黒沼館)、河野氏・寺林氏(寺林城)、平沢氏、石鳥谷氏、猪鼻氏(猪鼻館)、江曾氏(江曾館)、五大堂氏、好地氏、松林寺氏、戸塚氏、滝田氏(笹原館)、沢田氏(長谷堂館)、富沢氏(富沢館)、八幡氏、中嶋氏などが知られる。『稗貫氏探訪』 稗貫氏に關係する寺院 大興寺(稗貫氏の位牌、過去帳、墓碑)、光林寺(稗貫氏の墓碑)、瑞興寺(応永4年の開山で、開基が稗貫氏)、広隆寺(明徳年中に稗貫大和守の次男広隆が開基)。『稗貫氏探訪』

西暦	和 暦	逆算	記 事
1199	正治1	809	・1月 源頼朝が没する(年齢53歳)。『岩手県郷土史年表』
1218	建保6	790	・是信房(親鸞聖人の高弟)等が和賀地方で、のちに紫波町彦部で浄土真宗を布教する。『紫波町史第3巻』
1219	承久1	789	・1月 源実朝が殺害されて源氏が滅びる。
1223	貞応2	785	・河野通信(一遍上人の祖父)が北上の極楽寺で没する。
1224	元仁1	784	・親鸞が浄土真宗を開く。
1227	安貞1	781	・道元が曹洞宗を開く。
1250	建長2	758	・藤原兼頼が大和国高市郡(奈良県)より主従5人で奥州に下る。 山祇神社 祭神 大山祇命 崇神天皇(第10代)の時代、大彦命が当地方の蝦夷平定の際、夷酋(蝦夷の頭)五郎丸を討った。五郎丸は当地を掠め荒し、五郎館に拠っていたが、館を棄てて三倉の岩穴に逃げて抵抗、しかし、ついに命に攻めたてられ滅ぼされた。大彦命は常に大山祇神を信じ、奥内に一祠を建てこれを崇拝した。 後深草天皇(第89代)の建長2年、大和国高市郡から藤原兼頼は主従5人で奥州に下り、大瀬川西方の葛丸山に踏み入り、奥内に至ったところ、日も既に暮れたので、奥内の祠に一夜を明かしたが、その時、夢のお告げにより、今の「畑」の地に来て開墾、そこに居住した。兼頼は神霊のあらたかなるにより、奥内山神宮を再建し、居所の畑に分霊して信仰した。 兼頼の長兄の藤原源太夫弘長は江曾館(八幡村江曾)に住し、のち庵室を営み、恵明庵(黒沼長楽寺)と称した。次兄の権太夫兼長は宮野目村の仁右エ門(地名)において農業を営んだ。兼頼は畑部落に入って猟を営んだという。『石鳥谷町史上巻』 ・長楽寺(浄土真宗)が藤原源太夫弘長によって創建される。『寺伝』
1253	建長5	755	・4月 日蓮が法華宗を開く。
1262	弘長2	746	・天満宮が創建される。 天満宮(別名北野神社)、祭神 菅原道真公 畠山重忠の遠孫但馬守重安は、稗貫の大守河野通重(寺林城主)に仕え、大瀬川に住し瀬川殿と称した。深く天満宮を崇敬し、京都北野に赴き、分霊を勧請して館の傍らに神殿を築き、弘長2年武運長久封内守護の氏神として奉斎した。そして、土地を天神と改め天神地内は衆人の乗馬を禁じた。 重孝の代になり帰農し、その子孫は但馬又は多志馬と称し、屋号を天神と称した。8月25日大祭執行を例とした。『石鳥谷町史下巻』 古来大瀬川村民と北寺林村民が共同で天満宮を祭祀していたというが、天文年中に寺林村の氏子から奉納された幟があったことから証される。 大瀬川の西部には早くから山祇神社が鎮座していることから、天満宮の大瀬川村氏子は付近の下大瀬川部落民であったと思われる。『石鳥谷町史下巻』

西暦	和 暦	逆算	記 事
1266	文永3	742	・足利家氏が志和郡に下向して高水寺城に在城、斯波氏の祖となる。『岩手県郷土史年表』
1280	弘安3	728	・光林寺(時宗)が創建される。
1333	元弘3	675	・5月 鎌倉幕府が滅びる。
1338	延元3	670	・室町幕府が始まる。
1381	永徳1	627	・3月 寺伝によれば大興寺(曹洞宗)が創立するという。
1436	永享8	572	・5月 稗貫氏の本城瀬川城がおちる。『南部史要』 ・稗貫氏と南部氏との戦(永享戦)に瀬川隠岐守が参戦する。 瀬川氏 源頼朝の重臣であった畠山重忠が無実の罪で滅ぼされた時、長子重保は父に先立って殺された。その時、重保の側室浅芳が妊娠していた。浅芳の婢女采女は浅芳を伴って、ひそかに鎌倉を逃れ、父の郷里である駿河国(静岡県)に落ちた。浅芳は男子を出生し、これを平太郎と名付けた。これが畠山重忠の孫である。 浅芳はのちに縁があつて稗貫秀利(秀俊)の側室となって平太郎を養育したが、秀利の老臣伊藤伊左衛門は平太郎を養子として、これを稗貫秀利の妹(稗貫秀清の女)をめあわせて、名を伊藤平右衛門重行と改めた。畠山系重行は稗貫氏の姻族となって、その子孫は稗貫系ともなった。『瀬川稗貫系図』 畠山の名族を引く重行は、稗貫氏の庇護によって稗貫郡に下り大瀬川殿と称し、ここを領して瀬川氏の祖になったという。『石鳥谷町史上巻』
1459	長祿3	549	・山祇神社を奥内から一の沢に遷宮する(社地が狭く、通行不便なため)。
1461	寛正2	547	・8月 寺伝によれば長善寺(浄土真宗)が新堀大石野に創立という。
1502	文亀2	506	・正法寺(浄土真宗)が小山田村石鳩岡に創建される。のち八重畑に移る。
1504	永正1	504	・3月 寺伝によれば観音寺(浄土宗)が新堀願用島に創立という。
1528	享祿1	480	・10月 寺伝によれば新仙寺(曹洞宗)が新堀三竹堂に創立という。
1537	天文6	471	・天満宮に寺林村の氏子から奉納した幟あり。 天文6年8月25日 願主 奉納北野天満大自在天神宮 北寺林金右エ門 天満大自在天神宮 北寺林邑谷地治太郎 (谷地治太郎は北寺林高橋久雄家先祖)
1541	天文10	467	・寺伝によれば金剛寺(曹洞宗)が新堀旗長根に創立という。
1549	天文18	459	・キリスト教が伝来する。
1570	元亀～ 天正年間	438～	・この頃、稗貫氏が領有していた郷村名に瀬川村がある(瀬川村の初見か)。『郷土研究・花巻稗貫百家の先祖』
1573	天正年間	435～	・この頃、大瀬川館に瀬川隠岐が居住するという。『奥々風土記』 ・北寺林の稲荷神社を勧請するという。『町史資料』
1573	天正1	435	・3月 足利氏が滅ぶ。

西暦	和 暦	逆算	記 事
1575	天正3	433	・3月 稗貫大和守藤原武重が没し、大興寺に葬るという。『大興寺文書』 ・稗貫氏の男系が絶え、和賀家から孫次郎広忠を養子に迎える。『平沢家事跡』
1576	天正4	432	・織田信長が安土城を築く。
1583	天正11	425	・豊臣秀吉が大坂(阪)城を築城する。
1590	天正18	418	・稗貫広忠が領地を没収され、居城追放に処せられる。『盛岡市史』 ・和賀・稗貫・志和の3郡が豊臣秀吉の直轄領となる。『北上市史』 ・9月 浅野弾正長吉(長政)が秀吉の命によって奥州仕置のため当地方に下向する。寺林に浅野六兵衛を目代として駐在させる。『光林寺文書』
1591	天正19	417	・稗貫氏が滅ぶ。 稗貫氏の滅亡により、大瀬川館主瀬川氏も運命を共にしたものとみられ、のちに瀬川清助は南部利直に仕え、300石を給された。『角川岩手県地名辞典』 瀬川氏の居城 大瀬川古城跡 大瀬川村にあり、当領主は畠山重忠の末孫也と雖村老の口碑に残れるのみ東鑑を按るに重忠の長子六郎重保 中略 考ふるに是則瀬川氏は此人の子孫たるべし 中略 天正の晩年の頃の領主を瀬川隠岐守と云今其末多く御家に仕うと云云。『内史略』 瀬川ノ城 大瀬川村に今も城の跡あり。天正ノ年中城主は瀬川隠岐守となん。『奥々風土記』 大瀬川旧館 此領主畠山重忠ノ末孫云伝 中略 天正晩年城主云瀬川隠岐守其末葉多皆下凡下云々。『邦内郷村志』 稗貫一族諸臣の中に下記の氏名がある 瀬川五郎左衛門木矩、同右京、同久太郎武貞、同助左衛門本実、同藤次郎敬健、同下総守、同出羽守。『奥南落穂集』 ・9月 稗貫・和賀・志和の3郡が南部信直の所領となる(信直は10ヶ郡10万石の大名となる)。また、鳥谷ヶ崎城に郡代として北秀愛任用し8,000石を給する。『岩手県郷土史年表』 ・12月 鳥谷ヶ崎城を花巻城と改める。『八幡村誌』
1592	文禄1	416	・南部藩内に代官制度が定められる。『71年版岩手年鑑』
1596	慶長年中	412～	・旧奥州街道に石鳥谷駅を置く(第1次の石鳥谷駅で、寺林村の百姓を移して町屋をたてさせた)。旧奥州街道は南寺林から石鳥谷の上和町を通り、紫波町片寄方面に通じていた。『参考諸家系図』
1597	慶長2	411	・南部信直が世子利直をして不来方城(盛岡城)の築城に着手せしめる。
1598	慶長3	410	・3月 花巻郡代北秀愛が没し、父信愛が跡を継ぐ。『町史資料』

西暦	和 暦	逆算	記 事
1600	慶長5	408	・関ヶ原の戦いが起こる。
1603	慶長8	405	・2月 徳川幕府が成立する。
1606	慶長11	402	・8月 北松斎(信愛)より松林寺宛てに、稗貫・和賀両郡「かすみ」許可の墨付がでる。『松林寺文書』
1610	慶長15	398	・旧奥州街道に一里塚を築く(南寺林と好地に築かれる)。
1613	慶長18	395	・8月 花巻郡代北松斎(信愛)が没し、花巻雄山寺に葬る。『参考諸家系図』 ・10月 南部利直、子の政直を花巻城主とし、和賀・稗貫2万石を与える。
1622	元和8	386	・10月 石鳥谷地区に次の村郷がみられる。 中好地、上好地新田、瀬川、大興寺、寺林、長谷堂、富沢、松林寺、八幡、西中島、黒沼、江曾、小森林、戸塚新田、新堀新田、東中島、五大堂。『南部彦九郎政直宛南部利直領地状』 ・小瀬川村の村名あり。『南部彦九郎政直宛南部利直領地状』
1635	寛永12	373	・6月 参勤交代制が確定する。
1636	寛永13	372	・3月 キリシタン信者が成敗され、この中に八日市関係者が5人ある。
1647	正保4	361	・瀬川村(大瀬川村)の村高327石余(田高311石余、畠高16石余)。 同年の石鳥谷の村名(19ヵ村)『県立図書館蔵本』 新堀、戸塚、関口、八重畑、東中嶋、五大堂、猪鼻、滝田、瀬川、寺林、好地、石鳥谷、八幡、西中嶋、黒沼、小森林、大興寺、松林寺、富沢。 大瀬川の地名の由来は川瀬(川の底が浅く、流れの早い川)の多い川、室町期には稗貫氏の一族瀬川氏の本拠地、大瀬川、小瀬川の分村に伴う区分地名。『岩手の地名百科』 大瀬川の領主、瀬川氏の最初の居所は大瀬川ではなく、小瀬川にあったとも伝えられる。『角川岩手県地名辞典』
1658	万治1	350	・奥州街道の路線が変更され、並木を植えて一里塚を築く(花巻栗木町西曲田から紫波郡南日詰までまっすぐになる。また江曾と好地に一里塚が築かれる)。『江曾一里塚調査報告』
1661	万治4 寛文1	347	・この頃、辻村五十右エ門が近江国(滋賀県)から招かれ、10人扶持(1ヵ月に1石5斗の給米を給されること)を賜る。『大瀬川辻村家文書』 辻村家は南部藩の御鉄砲師(御抱鉄砲師)を勤め、初代五十右エ門、2代七郎右エ門、3代次郎兵衛、4代以降は佐傳治や磯右エ門を称して幕末まで大瀬川で鉄砲の製造にあたった。『広報いしどりや』 御鉄砲師は鉄砲の銃身を製作する人で、鉄砲はこのほかに鉄砲の銃身を受ける台を製作する鉄砲御台師、鉄砲の飾り金具を製作する鉄砲御金具師の3人の職人によって1挺の鉄砲が製造された。『広報いしどりや』 辻村家の古い墓の周辺は「蘭塔」と称され、大興寺の末寺である光明寺(現遠野市綾織)が周辺にあったといわれる。当時、辻村家との関係がうかがわれる。

西暦	和 暦	逆算	記 事
1661	万治4 寛文1	347	辻村家家譜(辻村家統) 初代 五十右エ門 近江の出 10人扶持。2代 七郎右エ門 一生2人扶持。 3代 次郎兵衛、一生2人扶持、大瀬川村御鉄砲師として召抱。4代 佐傳治 (磯右エ門)、2人扶持、明和7年没。5代 佐傳治(磯右エ門)、2人扶持、安永 7年没。6代 佐傳治(磯右エ門)、2人扶持、天明2(1782)年7月24日命により 大瀬川より盛岡移住の処、花巻に還住、天明4年没。7代 松之助(佐傳治)、 2人扶持。8代 磯右衛門、2人扶持。『辻村家関係資料』
1662	寛文2	346	・村井権兵衛が盛岡上町の村井新兵衛方にわらじをぬぐ。『紫波町史第1巻』
1664	寛文4	344	・南部藩が盛岡南部と八戸南部に分かれる。
1665	寛文5	343	・1月 瀬川村(大瀬川村)村高648石1斗3升3合。 同年の石鳥谷の村名(21ヵ村) 新堀、戸塚、関口、八重畑、東中島、五大堂、猪鼻、滝田、瀬川、寺林、 好地、八幡、西中島、黒沼、江曾、小森林、大興寺、松林寺、長谷堂、富沢、 石鳥屋。『盛岡市公民館所蔵資料』 ・2月 上平沢・稲藤・土館・片寄の4ヵ村が八戸藩領となる。『紫波町史第3巻』 ・稗貫郡内を八幡通、寺林通等5通に分ける。
1666	寛文6	342	・盛岡藩が全領地の検地を始める。『岩手年鑑』
1667	寛文7	341	・石鳥谷地区河西部の総検地が実施される。『石鳥谷町史上巻』
1672	寛文12	336	・6月 南部・八戸両藩の境界に藩境塚を築く。『岩手県郷土史年表』
1677	延宝5	331	・12月 村井権兵衛(志和近江屋祖)が志和郡上平沢村川原町で造酒業と 質屋の営業が認可される。『紫波町史第1巻』
1678	延宝6	330	・2月 石鳥谷に宿駅が置かれる。『雑書』 ・2月 石鳥谷に酒屋2軒置かれる。『雑書』 ・8月 石鳥谷の町割が実施される(西側9軒、東側3軒)。『花印』
1681	天和1	327	・3代官区(八幡通・寺林通・安俵通)の村名 八幡通(好地、八幡、黒沼、江曾、西中嶋、大瀬川)、寺林通(松林寺、長谷 堂、大興寺、南寺林、小森林、中寺林、北寺林、富沢、大瀬川)、安俵通 (新堀、五大堂、東中嶋、猪鼻、八重畑、戸塚、関口、滝田)。『邦内貢賦記』
1684	貞享1	324	・5月 稗貫52ヵ村の中に小瀬川村、大瀬川村の村名あり。『篤焉家訓』 「貞享高辻帳」に瀬川村、村高は328石余とある。『角川日本地名大辞典』 ・寺林村を南・中・北の3寺林に分け、黒沼村より江曾村を分ける。『岩手県 管轄地誌』
1686	貞享3	322	・2月 岩手山が噴火する。『南部史要』
1695	元禄8	313	・大飢饉(南部藩の4大飢饉の一つ)で餓死者40,000人という。
1701	元禄14	307	・8月 光林寺の寺号額が東山天皇より下賜される。『光林寺文書』
1731	享保16	277	・7月 「南無阿弥陀仏」の碑が建立される(大瀬川最古の供養碑、畠山カツエ 氏宅南側)。

西暦	和 暦	逆算	記 事
1735	享保20	273	・3月 南部藩領10郡33通に分け、25ヶ所に代官所を置いて統治する。 『南部史要』
1751	寛延4	257	・南部藩士清水秋全が江戸日本橋より盛岡中ノ橋までの沿道絵図を描く。 石鳥谷については、江曾一里塚、黒沼館、黒沼橋、八幡宮、葛丸橋、白幡 明神、好地一里塚、問屋、御制札、石鳥谷宿駅、酒屋などのほかに河沼、橋梁、 遠近の山形、沿道の松並木、集落などが描かれている。『広報いしどりや』 『増補行程記』
1751	宝暦年中	257	・稗貫・和賀2郡の社堂の検見が実施され、天神社(大瀬川天満宮)は俗別当 仁助、建物は2間4面のかや葺き屋根であった。『御領分社堂資料』
1753	宝暦3	255	・この頃の大瀬川村の知行主として奥瀬内記、穂高弥市左衛門、伴金右衛 門、奥瀬伊右衛門、下河原武七郎、平沢伝右衛門、簡治郎左衛門、美松庄 左衛門、工藤長左衛門、岡井益順、下田清左衛門が知られる。
1755	宝暦5	253	・10月 大瀬川村肝入六兵衛。『畠山文書』 (肝入は村里を代表して村の自治にあたり、上意の伝達や民意の上申などを 行なう村役である)
1759	宝暦9	249	・11月 八幡寺林通代官として島川幸右衛門、岩崎八十右衛門の名あり。 『田屋文書』 八幡寺林通代官所は花巻一日市に置かれ、所属村は黒沼村、西中島村、 江曾村、八幡村、好地村、新堀村、滝田村、戸塚村、関口村、猪鼻村、八重 畑村、東中嶋村、五大堂村。 寺林通は中寺林村、北寺林村、南寺林村、小森林村、松林寺村、大興寺 村、長谷堂村、富沢村、大瀬川村。『石鳥谷町史上巻』
1762	宝暦12	246	・9月 「庚申供養塔」が建立される(大瀬川地区最古の庚申塔、熊谷安隆氏 宅南側)。
1765	明和2	243	・3月 大瀬川村肝入 左平治。『畠山文書』
1767	明和4	241	・9月 大瀬川村肝入 治右工門。『田屋文書』 ・9月 八幡寺林通代官として原平兵衛、平沢継右衛門の名あり。『田屋文書』
1770	明和7	238	・9月 花巻大瀬川鉄砲師 2人扶持 辻村次郎兵衛。『辻村関係資料』
1773	安永2	235	・8月 「大乘妙典日本廻国塔」が五所ヶ森に建立される。
1777	安永6	231	・2月 大瀬川村肝入 治右工門。『畠山文書』
1780	安永9	228	・10月 大瀬川村戸数86軒、馬数171頭。『邦内郷村誌』
1782	天明2	226	・6月 大瀬川村肝入 藤助。『畠山文書』 ・6月 八幡寺林通代官として松井庄左衛門、川村弥三右衛門の名あり。 『田屋文書』
1783	天明3	225	・2月 大瀬川村肝入 重左工門。『田屋文書』 ・大飢饉(盛岡藩4大飢饉の1つ)。盛岡藩での餓死、病死者64,000人、 他領逃亡者3,300余人。『47年版岩手年鑑』

西暦	和 暦	逆算	記 事
1784	天明4	224	・3月 八幡寺林通代官関嘉兵衛、切田良之丞。『田屋文書』 ・9月 大瀬川村肝入 治右エ門。『田屋文書』 ・12月 八幡寺林通代官四戸要六、三田東太。『田屋文書』
1785	天明5	223	・菅江真澄が大瀬川を経て石鳥谷に泊まり、花巻へ向かう。『けふのせはなの』
1786	天明6	222	・1月 大瀬川村肝入 作左エ門。『畠山文書』
1793	寛政5	215	・山祇神社を一の沢から高井沢に遷宮する。
1794	寛政6	214	・1月 大瀬川村肝入 作左エ門。『畠山文書』
1795	寛政7	213	・花巻稗貫方面より農民数千人強訴し、盛岡城下に迫る(和賀稗貫の百姓一揆)。『47年版岩手年鑑』
1797	寛政9	211	・大瀬川村の馬数171頭。『邦内郷村誌』 ・12月 大瀬川村肝入 六兵衛。『北寺林・谷地文書』
1798	寛政10	210	・12月 大瀬川村肝入 六兵衛。『北寺林・谷地文書』
1799	寛政11	209	・大瀬川大神楽がこの頃、伝承を受ける。『第9区部落公民館記念誌』
1800	寛政12	208	・3月 大瀬川村肝入 六兵衛。『畠山文書』 ・6月 「摂待供養塔」が黒森山神社入口に建立される。
1801	享和1	207	・12月 大瀬川村肝入 左平治。『畠山文書』
1803	享和3	205	・2月 大瀬川村戸数91軒。『内史略』
1804	享和4	204	・2月 大瀬川村肝入 左平治。『畠山文書』
1805	文化2	203	・八千穂稲荷神社が「神平」(菅原家)に祀られる。 ・盛岡藩が20万石となる。
1806	文化3	202	・大瀬川の上平野の入会をめぐる紛争がおきる。『紫波町史第3巻』
1807	文化4	201	・7月 大瀬川村肝入 左平治。『田中文書』
1810	文化7	198	・5月 大瀬川村肝入 藤七。『田屋文書』
1811	文化8	197	・大瀬川村の村高1, 136石9斗8升5合。『南寺林・下沖田文書』 ・大瀬川の知行主と石高 下川原鈴馬(17石余)、奥瀬内記(50石)、奥瀬舎人(108石余)、簡甚右衛門(20石)、平沢弥三右エ門(1石余)、美濃部五右エ門(50石)、下田門治(20石余)、志和御境古人高(10石)。『南寺林・下沖田文書』 ・この頃から南部杜氏の出稼ぎがはじまる。『紫波町史第3巻』
1814	文化11	194	・金鑄神堂内に、この年の札あり。『いしどりや歴史散歩』
1815	文化12	193	・花巻郡代を城代と改める。『南部史要』
1816	文化13	192	・4月 大瀬川村肝入 治左エ門。『畠山文書』
1817	文化14	191	・南部藩を盛岡藩と改める。『岩手県郷土史年表』
1818	文化15	190	・3月 大瀬川村肝入 治右エ門。『北家・御次留帳』
1820	文政3	188	・9月 辻村左傳治 御鉄砲師 2人扶持。『諸職人面附帳』
1822	文政5	186	・大瀬川村肝入 左兵衛。
1827	文政10	181	・大瀬川村肝入 宇八。

西暦	和 暦	逆算	記 事
1828	文政11	180	・庚申堂内にこの年の棟札が現存する。 ・12月 八幡寺林通代官漆戸友蔵、一条仁左衛門。『畠山文書』
1829	文政12	179	・大瀬川村肝入卯八。
1830	文政13	178	・12月 大瀬川村肝入 治右エ門。『田屋文書』
1832	天保3	176	・3月 大瀬川村肝入 治右エ門。『畠山文書』
1833	天保4	175	・9月 大瀬川村肝入 左平治。『畠山文書』
1834	天保5	174	・大瀬川村肝入 宇八。
1836	天保7	172	・9月 大瀬川村肝入 六兵衛。『畠山文書』
1837	天保8	171	・1月 八幡・寺林・安俵・高木通の百姓数千人が、仙台領に越境訴願しようとして、藩境近くで捕らえられて処罰される。『内史略』 ・8月 辻村磯右エ門 御鉄砲師 2人扶持。『諸職人面附帳』 ・大瀬川村の村高1, 136石9斗8升5合。『盛岡市公民館所蔵資料』
1839	天保10	169	・この頃から板垣覚兵衛宅で寺子屋が始められ、明治5(1872)年の学制発布まで続けられたという。『石鳥谷町郷土教育資料』
1844	天保15	164	・10月 大瀬川村戸数88軒。 ・美松金作(大工棟梁)が大瀬川村に45石3斗1升8合を知行する。 知行地の耕作者は嘉藤治(高井沢)、弥助(的場)、長之丞(桃ノ木)、長八(久保)、孫之助(九口)、仁左エ門(小屋敷)、甚右エ門(橋見)、伊左エ門(中田)、宇八(吉沢)、作之助(栗ノ木)。『熊谷仁一家名寄帳』 ・12月 美松盛右エ門(浄山清遊居士)没、行年68歳。世話人として仁左エ門(熊谷仁一家先祖)、施主として弟子供とある。『熊野権現境内』
1847	弘化4	161	・7月 大瀬川村肝入 佐平治。
1849	嘉永2	159	・1月 大瀬川村肝入 六之助、六兵衛。『畠山文書』 ・4月 大瀬川村戸数68軒、人数253人(男137、女116)。 菩提寺は大興寺、光林寺、長楽寺、極楽寺、永光寺、願円寺等である。
1850	嘉永3	158	・正月 御鉄砲師 辻村磯右エ門。『雑書』『覚書』 ・11月 大瀬川村肝入 六兵衛。『畠山文書』
1851	嘉永4	157	・大瀬川村肝入 仁右エ門。
1854	嘉永7 安政1	154	・大瀬川老名宇八、六兵衛、仁左エ門、半右エ門、佐平治、肝入 長右エ門。 『石鳥谷町史上巻』 ・7月 葛丸川「一の留」の分水の割合を決める(関係6ヶ村の願出により、1丈8尺の土木をすえ、6分、4分に定める)。「八幡村役場記録」 一の留で取水された用水は、上堰(支流)と下堰(本流)の2つに分水されるが、下堰は八幡・中寺林・黒沼・西中島・北寺林・大瀬川・好地など、約450ヘクタールの水田を灌漑する。一方、上堰は小屋場地内で更に南口(北寺林・大瀬川)、中口(好地・石沢)、北口(志和・赤石・好地)の3つに分かれ、およそ520ヘクタールの水田を潤している。

西暦	和 暦	逆算	記 事
1854	安政1	154	一の留(続) 記録に残る争いだけでも寛文8(1668)年、延宝元(1673)年、延享元(1744)年、宝暦5(1755)年、天明3(1783)年、同5年、同7年、嘉永6(1853)年、同7年、明治3(1870)年、同18年、同23年、同25年、同35年、大正13(1924)年と250余年のうちで10数回もあった。『いしどりや歴史散歩』 ・冬から翌春にかけ、葛丸山林より桧材1,782本を伐り出す。『辻村文書』
1855	安政2	153	・3月 大瀬川村肝入 長右工門。『辻村文書』 ・3月 大瀬川御山守 半右工門、吉右工門、長十郎、長右工門、同老名六兵衛、佐平治、仁右工門。『辻村文書』
1857	安政4	151	・大瀬川村肝入庄七。
1858	安政5	150	・1月 大瀬川村肝入 半右工門。『畠山文書』 ・9月 御鉄砲師 辻村磯右工門。『雑書』『覚書』
1859	安政6	149	・2月 大瀬川村肝入 半右工門。『畠山文書』
1860	安政7 万延1	148	・2月 大瀬川村肝入 長右工門、半右工門。『畠山文書』 ・3月 大瀬川村肝入 半右工門。『畠山文書』
1861	文久1	147	・3月 大瀬川村肝入 半右工門。『八幡・大原文書』
1862	文久2	146	・3月 大瀬川村肝入 佐平治。『一ノ倉則文文書』 ・9月 2人扶持 花巻住居 御鉄砲師 辻村磯右工門。『諸職人面附帳』
1863	文久3	145	・4月 大瀬川村肝入 佐平治。『畠山文書』
1865	元治2	143	・1月 大瀬川村肝入 宇八。『畠山文書』 ・5月 御鉄砲師 辻村磯右工門。『雑書』『覚書』
1866	慶応2	142	・2月 御鉄砲師 辻村磯右工門。『雑書』『覚書』
1867	慶応3	141	・3月 大瀬川村肝入 宇八。『北寺林・谷地文書』 ・大政奉還、徳川慶喜が将軍職を辞し、政権が江戸より京都に移る。『盛岡市通史』
1868	慶応4 明治1	140	・9月 明治と改元する。 ・盛岡藩が帰順を決定する。 ・1月 鳥羽・伏見の戦い。 ・3月 明治天皇が五カ条の御誓文を宣する。 ・4月 江戸城が開け渡しされる。 ・7月 江戸を東京と改称する。 ・12月 花巻城が開城する。
1869	明治2	139	・大瀬川村老名 半右工門、肝入 仁左工門。『南寺林・中屋敷文書』
1870	明治3	138	・2月 初めて村長が任命される。従前の肝入を村長といい、老名を副村長と改称する。『岩手県史』 ・7月 盛岡藩を廃し、盛岡県を新置する(石鳥谷地域は盛岡県に属す)。 ・9月 平民に苗字が公認される。

西暦	和 暦	逆算	記 事
1871	明治4	137	・3月 26区郡長蛇口円二郎(所管村は北寺林・中寺林・南寺林・小森林・大瀬川)。『盛岡市史第4巻』 ・7月 廃藩置県を定め、旧藩制度が廃止される。『岩手県史』 ・7月 文部省が設置される。『岩手県郷土史年表』 ・戸長制度ができる。 ・11月 26区戸長守田大次郎、副戸長秋山采江(所管村の戸数、北寺林71戸、中寺林58戸、南寺林53戸、小森林10戸、大瀬川116戸)。『石鳥谷町史下巻』 ・山祇神社が村社に指定される。『石鳥谷町郷土教育資料』
1872	明治5	136	・1月 盛岡県を廃し、岩手県と改称する。 ・5月 神仏分離令が發布される。 ・7月 郵便法が実施される。 ・8月 学制が發布される。 ・8月 教育令による義務教育が始まり、県内に196校を設置する。『47年度版岩手年鑑』 ・北寺林小学校が創設される。 ・9月 大瀬川村戸長菅原佐兵治。『御布告留帳』 ・12月 旧暦を太陽暦に改める。『明治百年資料』
1873	明治6	135	・1月 初代県令島惟精が就任する。 ・岩手県人口376,000余人、戸数62,400余戸。『47年版岩手年鑑』
1874	明治7	134	・3月 小屋場に大瀬川学校が創立される(板垣嘉太郎氏所有の物置小屋を借り受けて改修、教師1人、児童23名)。『大瀬川小百年記念誌』 ・東京盛岡間の電話線が架設される。
1875	明治8	133	・1月 郵便役所を郵便局と改称する。『47年版岩手年鑑』 ・10月 北寺林小学校を扇屋敷に公立学校として新築開校する。『郷土教育資料』
1876	明治9	132	・9月 大瀬川の戸数116(農業115、他業1)、人数702(男387、女315)。『岩手県管轄地誌』 ・9月 大瀬川学校児童数66人(男46、女20)。『岩手県管轄地誌』 ・9月 大瀬川の水田面積136町3606、畑86町8204、宅地17町0812。『岩手県管轄地誌』 ・9月 大瀬川地区のこの頃の物産として馬、米、大麦、大豆、粟、麻布があった。『岩手県管轄地誌』 ・9月 大瀬川村の馬数150頭。『岩手県管轄地誌』 ・9月 大瀬川の字名 『岩手県管轄地誌』 通障子、高井沢、新山、林、田中、西海地、大地渡、古館、小屋敷、六盃、上ノ野、野原、金矢、新田、九口、茶畑、吉沢、朴田、午房、天神。

西暦	和 暦	逆算	記 事
1876	明治9	132	・この頃の大瀬川村の状況 里程 元標六盃にあり。本庁へ北7里12町30間4尺5寸、花巻駅元標へ3里19町18間5尺、北寺林元標へ28町32間3尺。 道路 葛丸往来。長4里31町、幅3間本村中央より葛丸山に通ず。方里標より分岐して左右に通ず。其の左は八幡村番屋に至る。長1里5町23間。其の右は好地村石鳥谷に至る。長1里2町25間、皆函館街道に通ず。鉛温泉往来。長1里4町1間、鉛温泉より豊沢川を渡り、紫波郡稲荷神社を経て函館街道に入る。本村葛丸山の深奥を通ず。『岩手県管轄地誌』
1878	明治11	130	・大瀬川学校が上金矢板垣長十郎所有地に校舎新築移転(床屋学校)。 『大瀬川小百年記念誌』
1879	明治12	129	・1月 稗貫郡長に照井庸三(八幡村住居)が任命される。『盛岡市史第3巻』 ・1月 好地村・大瀬川村・北寺林村をもって一つの戸長役場を好地に置く(戸長関善太郎)。『町教育資料』 ・5月 稲村徳助(近代南部杜氏の祖)が没する(年齢60歳)。 稲村徳助 文政2年(1819)12月5日に大瀬川村で板垣万五郎(屋号上野々)の長男として出生。紫波町日詰の商業、稲村長四郎の妹そめと結婚して稲村姓を称し、同地の井筒屋(郡印・小野家)で酒造りにあたった。のち石鳥谷の井筒屋別家(酒屋)に勤務し、酒造りの研究に積極的に関わり、また、弟子の養成にも熱心に取り組んだ。 ・10月 稗貫・和賀郡役所が花巻に設置される。 ・学制を廃止し、教育令が公布される。『石鳥谷町史下巻』
1881	明治14	127	・3月 大瀬川学校を大瀬川小学校と改称する。『石鳥谷町年表』 ・10月 学務委員板垣馬之丈。『岩手県教育史資料』
1882	明治15	126	・3月 学務委員板垣馬太郎。『岩手県教育史資料』
1883	明治16	125	・2月 酒造法改正により、一般家庭でも届出許可で濁酒を製造することができるようになる。 ・11月 「餓死供養(有縁・無縁)塔」が建立される(旧畑公民館前)。
1884	明治17	124	・8月 好地戸長役場所管の各村(好地・北寺林・中寺林・大興寺・富沢・松林寺・長谷堂・八幡・大瀬川)。『石鳥谷町史下巻』
1886	明治19	122	・3月 「金鑄神」の碑が金矢に建立される。 ・8月 大瀬川村組合総代熊谷彦太郎(葛丸川用水路関係)。 ・小学校令を公布し、尋常・高等の2段階とし、尋常小学校・高等小学校とも修業年限を4ヵ年とし、尋常小学校修了まで義務教育と定められた。『石鳥谷町史下巻』 ・五所ヶ森の公葬地が許可される(当時の面積は1反9畝29歩)。
1887	明治20	121	・3月 好地村、八幡村2ヶ村の巡査駐在所を好地に開設する。

西暦	和 暦	逆算	記 事
1887	明治20	121	・4月 大瀬川学校が簡易小学校と改称する(3学級編成)。『学校沿革誌』 ・小学校令による教科 『石鳥谷町史下巻』 尋常小学校 修身・読書・作文・習字・算術・体操・図画・唱歌。 高等小学校 修身・読書・作文・習字・算術・地理・歴史・理科・図画・唱歌・体操・裁縫(女子)・英語・農業・手工・商業。 小学簡易科 読書・作文・習字・算術。
1889	明治22	119	・2月 大日本帝国憲法が公布される。 ・4月 はじめて村会議員選挙が行われる。 ・4月 盛岡に市制、その他に町村制を施行し、19郡・1市・21町219村となる。町村制施行により旧来の大興寺、松林寺、長谷堂、富沢、大瀬川、北寺林、好地の各村を好地村とする(初代好地村村長後藤直助)。 ・5月 好地村の消防団が設立される(組織は3部制で第1部が好地、第2部が八日市、第3部が大瀬川)。『石鳥谷町史下巻』
1890	明治23	118	・7月 第1回衆議院議員選挙が実施される。『岩手県郷土史年表』 ・7月 好地尋常小学校北寺林分教場教員菅原愛五郎(大瀬川出身)。『八日市小百周年記念誌』 ・9月 「餓死供養」の碑が建立される(五所ヶ森)。 ・11月 東北本線が盛岡まで開通する。『47年版岩手年鑑』 ・小学校令が改正される。『石鳥谷町史下巻』 ・「教育に関する勅語」(教育勅語)が發布される。『石鳥谷町史下巻』
1891	明治24	117	・2月 教育勅語が下賜され、学務員熊谷彦太郎宅の奥の間に奉置する。『大瀬川小百年記念誌』 ・4月 石鳥谷郵便局が開設される(局長鎌田重兵衛)。 ・9月 東北本線盛岡・青森間が開通する。
1891	明治25	117	・4月 大瀬川簡易小学校を大瀬川尋常小学校と改称する。『大瀬川小百年記念誌』 ・5月 学務委員熊谷彦太郎。『好地村役場資料』 ・大瀬川村開業医師大沢広司(内外科医)。『岩手県医師会史』
1893	明治26	115	・2月 東北本線石鳥谷駅が設置される。 ・3月 大瀬川小学校卒業生の中に大沢竹次郎の名がある。『大瀬川小百年記念誌』 ・4月 好地村議会議員 高橋久次郎。『第9区部落公民館記念誌』
1894	明治27	114	・三又與次郎が大瀬川で内科・産婦人科三又医院を開業。『広報いしどりや』
1895	明治28	113	・大瀬川小学校卒業児童数9人。『大瀬川小百年記念誌』

西暦	和 暦	逆算	記 事
1895	明治28	113	・8月 日清戦争が始まる。
1896	明治29	112	・3月 南尋常小学校(紫波町水分)教師菅原愛五郎。『水分小学校創立100周年記念誌』
			・3月 大瀬川小学校初代校長に菅原愛五郎が就任する(～34年5月)。
			・大瀬川小学校に補習科を設置する。『大瀬川小百年記念誌』
			・12月 花巻区裁判所好地出張所が好地の関善太郎所有地に開庁する。
			・好地村農会が創立される(会員23名、会長後藤直助)。
1899	明治32	109	・郡農会が発足する(初代会長、稗貫郡長新渡辺宗助)。『岩手県史』
1900	明治33	108	・1月 自家用酒の製造が禁止される。『郷土教育資料』
			・4月 郡立農事試験場が花巻町に開設される(場長島善平)。
			・旱魃により葛丸川一の留に本支流側の農民が集合して一大衝突する。
			・小学校令施行規則を制定する。
1901	明治34	107	・2月 県立農事試験場が開設される(初代場長長谷川豊太郎)。
			・4月 大瀬川小学校が単級小学校となる。『大瀬川小百年記念誌』
1903	明治36	106	・教科書が国定となる。
			・11月 「親鸞聖人」の石碑が建立される(小屋場地内)。
1904	明治37	104	・2月 日露戦争が起こる。
1905	明治38	103	・3月 大瀬川小学校長中島連八。『大瀬川小百年記念誌』
			・6月 学務委員畠山市太郎。『好地村役場資料』
			・8月 好地村第3代村長板垣馬之丈(～42年8月)。
1906	明治39	102	・石鳥谷、大迫間の道路が完成する。
1907	明治40	101	・4月 好地村議会議員 藤原米蔵。『第9区部落公民館記念誌』
			・6月 大瀬川小学校の補習科を廃止する。『大瀬川小百年記念誌』
			・小学校令が改正され、尋常科6年とし義務教育年限を6年に延長する。また、高等小学校は尋常小学校卒業後2ヵ年(または3ヵ年)となる。『石鳥谷町史下巻』
			・尋常・高等小学校教科書 『石鳥谷町史下巻』 尋常小学校 修身・国語・算術・日本歴史・地理・理科・図画・唱歌・体操・裁縫(女子)・手工。 高等小学校 修身・国語・算術・日本歴史・地理・理科・図画・唱歌・体操・裁縫(女子)・手工・農業・商業・英語。
1908	明治41	100	・4月 大瀬川小学校が3学級となる。『大瀬川小百年記念誌』
1909	明治42	99	・3月 八幡村に「陸中国八幡三等郵便局」が開局する(局長瀬川壮太郎)。『八幡局沿革誌』
			・6月 学務委員板垣馬之丈。『好地村役場資料』

西暦	和 暦	逆算	記 事
1909	明治42	99	・8月 好地村長高橋久治(～大正10年3月)。 ・8月 大瀬川小学校長村瀬熊太郎。『大瀬川小百年記念誌』 ・好地村・大迫町間に乗合馬車が開通する。『岩手県統計書』
1910	明治43	98	・8月 「菅原愛五郎先生」(大瀬川小学校初代校長)の碑が大瀬川公葬地に建立される。
1911	明治44	97	・6月 大瀬川小学校長鈴木忠太郎。『大瀬川小百年記念誌』 ・10月 岩手軽便鉄道株式会社が創立される(花巻、遠野間に軽便鉄道が敷設される)。
1912	明治45 大正1	96	・2月 大瀬川小学校長牛崎操城。『大瀬川小百年記念誌』 ・4月 詩人石川啄木が没する(年齢26歳)。 ・葛丸川一の留において水争議が起こる(嘉永の例により、4分6分の分水を行う)。 ・大瀬川小学校教員3名、児童131名。『大瀬川小百年記念誌』 ・黒森講社が組織される(消防の前身)。『第9区部落公民館記念誌』 ・年号の改元があり、大正となる。 ・10月 大正橋が竣工する。『新堀村役場記録』 ・10月 岩手軽便鉄道花巻・土沢間が開通する。『47年版岩手年鑑』
1914	大正3	94	・1月 八日市小学校が全焼する。『学校沿革誌』 ・大瀬川小学校が第10地割125番地に校地を変更する。『大瀬川小百年記念誌』 ・6月 学務委員板垣丑五郎。『好地村役場資料』 ・7月 南部杜氏組合が創立される(組合員数220名)。『南部杜氏50史』
1915	大正4	93	・12月 石鳥谷郵便局が電信取扱局となる。『石鳥谷局帳簿』 ・石鳥谷駅から硫黄の貨物発送あり(33トン)。『岩手県統計書』
1917	大正6	91	・4月 好地村議会議員 三又與次郎。『第9区部落公民館記念誌』 ・畑集落民が民家を塾として学校を開設する。『大瀬川小百年記念誌』
1918	大正7	90	・5月 宮沢賢治が大瀬川小学校校長官舎に一泊する。 宮沢賢治が一泊したゆかりの跡地 大瀬川公民館跡地内 大正7年3月、盛岡高等農林本科を卒業し、研究生として残った賢治のもっとも重要なことは、稗貫郡の土性調査であった。 それは、当時稗貫郡郡長であった葛博氏(盛岡の人)が農業の振興の基礎となる土地の性質を調べ、農民が自分の耕地条件をよく知り適種適肥、自力自成、安心して農業を営める様にさせるために行った土性調査である。 この調査を郡役所から依頼されたのが、土壌学の権威であった関豊太郎博士、助教授の神野幾馬、小泉多三郎、それに賢治であった。 同年5月1日(水)、当時の大瀬川小学校の校長官舎がこの地にあり、時の牛崎操城校長(宮野目出身)の好意によって、賢治が一泊した。

西暦	和 暦	逆算	記 事
1918	大正7	90	宮沢賢治が一泊したゆかりの跡地(続) このことを、同年5月2日の朝に、賢治は父政次郎氏宛に送ったハガキで、次のように述べている。 「昨日は雨天に御座候処予定の調査を終へ昨夜は当小学校長宅に泊り全く乾かし貰ひ候本日は晴さうにも見へ候へども割沢川沿ひに調査致し明日晴天ならば割沢より山地を経て当所に出て帰花仕るべく候」 時に賢治は22歳であった。『石鳥谷町観光協会』 ・9月 政友会総裁原敬政党内閣を組織する。『盛岡市通史』
1920	大正9	88	・3月 学校医三田四郎。『大瀬川小学校百年記念誌』 ・大噴鉱山(硫黄山)が、この頃廃業する。『広報いしどりや』 ・10月 第1回国勢調査施行、本県人口845,550人。『47年版岩手年鑑』
1921	大正10	87	・4月 郡立稗貫農業学校が開校する。『47年版岩手年鑑』 ・6月 学務委員三又与次郎。『好地村役場資料』 ・7月 好地村長佐々木賢蔵(～大正14年7月)。
1922	大正11	86	・2月 好地村役場移転問題で騒動が起こる。『花巻警察署編著』 ・9月 大瀬川小学校長千葉。『大瀬川小百年記念誌』
1924	大正13	84	・7月 一の留において水引争議が起こり、稗貫・紫波郡長が斡旋し、関係4町村長各町村委員間で協議が成立して「土木」を据付ける。『八幡村記録』
1925	大正14	83	・6月 学務委員板垣長五郎。『好地村役場資料』 ・7月 好地村長柳原一郎(～昭和4年7月)。 ・大瀬川小学校教員4名、児童173名。『大瀬川小百年記念誌』
1926	大正15 昭和1	82	・3月 大瀬川小学校長佐藤小次郎。『大瀬川小百年記念誌』 ・7月 郡役所が廃止される。 ・12月 昭和と改元される。
1927	昭和2	81	・6月 学務委員板垣丑五郎。『好地村役場資料』 ・八千穂稲荷講が始められる(八千穂稲荷神社)。『広報いしどりや』
1928	昭和3	80	・8月 庚申堂境内に「松尾大神」の碑が建立される。 ・10月 好地村(好地・北寺林・大瀬川・大興寺・松林寺・富沢・長谷堂)が町制を施行し、石鳥谷町と改称する。 ・石鳥谷町農会会員735人。『石鳥谷町勢要覧』 ・畑部落に校舎を新築し、大瀬川小学校畑教育所と称す。『大瀬川小百年記念誌』 ・宮沢賢治が好地に出張し、稲作施肥設計を指導する。 ・石鳥谷町の商・工業区分 『昭和3年版石鳥谷町勢要覧』 商業 専業40 兼業(主66、副30) 工業 専業23 兼業(主33、副57) 計 専業63 兼業(主99、副87)

西暦	和 暦	逆算	記 事
1929	昭和4	79	・3月 大瀬川小学校校長藤原浜治。『大瀬川小百年記念誌』 ・大瀬川小学校に実業補習学校を併設する。『大瀬川小百年記念誌』 ・4月 石鳥谷町議会議員 熊谷米蔵(～12年4月)。『第9区部落公民館記念誌』 ・7月 石鳥谷町長藤原脩二(～昭和8年7月)。 ・8月 畑教育所が全焼し、9月に藤原覚三・藤原末蔵両所有地に校舎を新築する。『大瀬川小百年記念誌』
1930	昭和5	78	・3月 学務委員熊谷万次郎。『好地村役場資料』 ・三又宮次郎(東京医専一現在の東京医科大学卒)が三又医院を継ぐ。『広報いしどりや』
1931	昭和6	77	・この頃、石鳥谷町産業協同組合が設立される(初代組合長板垣春治)。『賢治先生と石鳥谷の人々』
1932	昭和7	76	・4月 三又與次郎が没する(年齢64歳)。 三又與次郎は稗貫郡医師会副会長、・同評議員、県医師会評議員、村医、校医を歴任したほか、八幡宮(八幡)、山祇神社(大瀬川)、熊野神社(好地)等7社の神主を勤めた。『広報いしどりや』 ・4月 石鳥谷尋常高等小学校が焼失する(同年10月に完成)。 ・11月 国鉄二枚橋信号所が駅に昇格する。『岩手日報』 ・12月 「葛丸川林道開設記念碑」が旧畑公民館前に建立される。
1933	昭和8	75	・3月 大瀬川小学校長晴山吉郎。『大瀬川小百年記念誌』 ・7月 大瀬川小学校が焼失する。焼失により甘木、田屋、小屋敷の3カ所に分かれて授業を行う。『大瀬川小百年記念誌』 ・8月 石鳥谷町長八重樫寅蔵(～昭和10年3月)。 ・9月 宮沢賢治が没する(年齢38歳)。 ・菅野義之助等が菅原康三郎所有地を調査し、土器・石器等を発見する。
1934	昭和9	74	・4月 畑教育所を大瀬川尋常小学校畑分室と改称。『大瀬川小百年記念誌』 ・5月 学校医三又宮次郎。『大瀬川小百年記念誌』 ・12月 大瀬川小学校復旧校舎が落成する。『大瀬川小百年記念誌』
1935	昭和10	73	・3月 石鳥谷町長関庄三郎(～昭和16年1月)。 ・6月 畑分教場設置を県知事より指定される。『大瀬川小百年記念誌』 ・7月 大瀬川小学校に石鳥谷青年学校分教場を併置する。『大瀬川小百年記念誌』
1936	昭和11	70	・3月 大瀬川小学校長佐藤周右工門。『大瀬川小百年記念誌』
1937	昭和12	71	・3月 葛丸川沿岸耕地整理組合が設立され、沢山ダムの建設に着工する。(昭和22年に補助打ち切りとなり、工事中止する)『山王海土地改良区の歩み』 ・4月 石鳥谷町議会議員 三又宮次郎(～17年6月)。『第9区部落公民館記念誌』

西暦	和 暦	逆算	記 事
1937	昭和12	71	・八千穂稲荷講を始め、参拝者の便をはかる。『石鳥谷町郷土教育資料』
1938	昭和13	70	・4月 大瀬川小学校に高等科併設し、大瀬川尋常高等小学校と改称する。 石鳥谷青年学校分教場は廃止される。『大瀬川小百年記念誌』
1940	昭和15	68	・4月 大瀬川小学校学校林を造成する。
1941	昭和16	67	・1月 石鳥谷町長 関庄三郎、助役 板垣長五郎、収入役 八重樫六郎。 石鳥谷町議会議員 菊池正次郎、渡辺弥右衛門、板垣長左衛門、高橋敬一郎、菊池善次郎、川村與右衛門、三又宮次郎、橘善六、関庄三郎、板垣長兵衛、八重樫文次郎、藤原脩二。 大瀬川尋常高等小学校 校長 佐藤周右衛門、職員 伊藤忠、伊藤清男、桑島三治、菅原清夫、板垣エナ、小田島ヤエ、細川ツヤ、北條健次郎。 石鳥谷信用販買購買利用組合 組合長理事 板垣春治、専務理事 細川源蔵。『稗和両郡職員録』
			・3月 石鳥谷町長藤原脩二(～昭和17年5月)。
			・3月 農地開発法が制定され、未開発地の開拓が始まる。
			・4月 大瀬川小学校が大瀬川国民学校と改称、同畑分教場は大瀬川小学校畑分教場と改称する。『大瀬川小百年記念誌』
			・12月 大平洋戦争が始まる。
1942	昭和17	66	・3月 大瀬川小学校長菊池敏。『大瀬川小百年記念誌』
			・4月 米の配給制が始まる。
			・6月 石鳥谷町議会議員 熊谷善右衛門、熊谷米蔵(～21年)。『第9区部落公民館記念誌』
			・11月 学務委員板垣長五郎。『好地村役場資料』
1944	昭和19	64	・2月 石鳥谷町森林組合が設立される。
			・2月 石鳥谷青年学校学務委員三又宮次郎、板垣長左衛門。『好地村役場資料』
1945	昭和20	63	・南野原の開拓が始まり、入植戸数30戸152人。
			・9月 降伏条約が締結される。
			・12月 官国幣社、県郷村社の社格が廃止になる。
1946	昭和21	62	・3月 大瀬川小学校長松田耕介。『大瀬川小百年記念誌』
			・4月 婦人参政権が与えられる。
			・菅原佐平治が石鳥谷町農業会長に就任する。
			・12月 農地改革が始まり、農地委員の選挙が行われる。『47年版岩手年鑑』
1947	昭和22	61	・3月 大瀬川小学校長中島新三郎。『大瀬川小百年記念誌』
			・4月 石鳥谷中学校長佐藤周右衛門。
			・4月 大瀬川小学校が発足する(学級数本校6、畑分校1、教員数8、児童数205)。『大瀬川小百年記念誌』

西暦	和 暦	逆算	記 事
1947	昭和22	61	・4月 町内の国民学校を小学校と改称する。学制改革により石鳥谷・新堀・八幡・八重畑の各町村に義務教育中学校を創立する。『学校沿革誌』 石鳥谷中学校は石鳥谷小学校敷地内にある青年学校校舎を本校舎とし、大瀬川小学校内と八日市小学校内にそれぞれ、大瀬川分校、八日市分校を設置して発足した。 ・4月 町村長第1回公選施行され、石鳥谷町長に藤原文三が当選する(～昭和30年3月)。 ・4月 民選知事国分謙吉が当選する。 ・4月 地方自治法が公布になる。 ・5月 日本国憲法が公布になる。 ・6月 石鳥谷町議会議員 菅原卯三(～30年3月)。『第9区部落公民館記念誌』
1948	昭和23	60	・3月 自治体警察制度ができ、石鳥谷町警察署が設置される。『管内実態調査書』 ・4月 学校医猪原正持。『大瀬川小百年記念誌』 ・5月 学務委員板垣幸道、畠山弥平治。『好地村役場資料』 ・5月 石鳥谷中学校学務委員高橋藤左エ門。『石鳥谷町役場資料』 ・7月 石鳥谷町農業協同組合が発足する(初代組合長菅原佐平治)。『いしのうのあゆみ』 ・8月 南部杜氏組合を「協会」に改組する。『南部杜氏50年史』 ・8月 葛丸川沿岸耕地整理組合が国営山王海農業水利改良事業区域となる。 ・8月 石鳥谷中学校が好地第7地割37番地に校舎を新築移転する(4学級)。大瀬川分校は廃止される。 ・山王海・赤石・甘木・葛丸川沿岸の各水利、耕地整理組合をもって山王海農業水利改良事業促進協議会を結成する。『滝名川物語』 ・農業共済制度が発足し、各市町村に農業共済組合が設立になる。『47年版岩手年鑑』
1949	昭和24	59	・5月 石鳥谷町議会議長菅原佐平治。 ・7月 石鳥谷町農業協同組合長菅原佐平治。『いしのうのあゆみ』 ・10月 石鳥谷商工会が設立される(初代会長菊池民次郎)。『石鳥谷町史下巻』
1950	昭和25	58	・1月 大瀬川小学校長神山正雄。『大瀬川小百年記念誌』 ・4月 大瀬川公民館が建設される(初代館長菅原斎)。 ・菅原佐平治が石鳥谷町議会議長に就任する。 ・町内農民組合が解散する。
1951	昭和26	57	・1月 石鳥谷町立病院を建設して診療を開始する。

西暦	和 暦	逆算	記 事
1951	昭和26	57	・4月 石鳥谷町議会議員 高橋藤左エ門。『第9区部落公民館記念誌』
			・4月 県議会議員選挙が行われ、石鳥谷町の関秀吾が当選する。
			・5月 学校医三又勝彦、高野正二。『大瀬川小百年記念誌』
			・7月 農業委員会法施行により従前の農地委員会、農業調整委員会、農業改良委員会の3者を統合して各町村に農業委員会を設置する。
			・9月 自治体警察である石鳥谷町警察署が廃止になる。『石鳥谷警察官派出所帳簿』
			・10月 石鳥谷地区警察署が設置される。八重畑・新堀・八幡に駐在所を置く。『管内実態調査書』
1952	昭和27	56	・2月 山王海土地改良区が設立される。旧石鳥谷町、八幡村の大部分はその区域内に入る。『滝名川物語』
			・11月 大瀬川小学校に電話が架設される(電話番号石鳥谷147番)。
			・11月 石鳥谷町教育委員三又勝彦。
			・11月 石鳥谷町教育長板垣幸道。
			・12月 山祇神社の法人登記が行われる。
1953	昭和28	55	・6月 社団法人南部杜氏協会が設立される(会員2,547人、初代会長藤村徳三)。『南部杜氏50年史』
			・畑分校の教員住宅を新築する。『大瀬川小百年記念誌』
			・6月 山王海ダムが完成する。『紫波町史第3巻』
			・7月 石鳥谷町が県教育委員会より「モデル教育町」に指定される(教育長高橋清一)。
1954	昭和29	54	・3月 国営山王海農業水利改良事業が完了する。
			・6月 警察法の一部改正により、石鳥谷地区警察署が廃止される。『石鳥谷警察官派出所帳簿』
			・7月 花巻警察署石鳥谷警部補派出所が設置される。
			・7月 大瀬川保育所が開設される。
1955	昭和30	53	・4月 1町3ヶ村(石鳥谷町・新堀村・八幡村・八重畑村)が合併して新しい「石鳥谷町」が発足する。
			・4月 石鳥谷町教育委員会が新しくできる。
			・4月 石鳥谷町立図書館を石鳥谷町公民館に附設する。
			・4月 石鳥谷病院が石鳥谷町に継承される。
			・4月 大瀬川保育所が開設される。
			・4月 広報「いしどりや」創刊号を発行する。
			・4月 初代町長に大森新陸が当選する。
			・4月 石鳥谷町議会議員 菅原卯三(～8月)。『第9区部落公民館記念誌』
			・5月 政府米事前売渡制度ができる。
			・5月 新町体育協会が発足する(初代会長関賢七)。

西暦	和 暦	逆算	記 事
1955	昭和30	53	・7月 石鳥谷町社会教育委員がはじめて委嘱される。
			・8月 合併後の町議会議員選挙が行われる。選挙区は旧町村単位で、定員は26名。『新町発足40周年記念誌』
			・10月 国勢調査が実施される(町人口17,021人)。
1956	昭和31	52	・1月 第1回成人式が石鳥谷中学校で行なわれる(対象者400人)。『石鳥谷町の教育』
			・3月 町営住宅10棟竣工、物見山住宅と称す。
			・7月 石鳥谷公民館が開館する。
			・8月 全国農機具展示会が石鳥谷中学校で開催される。
			・9月 石鳥谷駅跨線橋の落成式が行われる。『新町発足40周年記念誌』
1957	昭和32	51	・4月 各支所(新堀、八幡、八重畑)を廃止して、新たに八重畑出張所を設置する。
			・5月 石鳥谷町役場新庁舎が八幡5地割13番地5に完成する。
			・11月 第1回農民祭を石鳥谷小学校で開催する。
			・花巻温泉電鉄株式会社が瀬川経由十二神方面の運行を開始する。
1958	昭和33	50	・4月 瀬川小学校校長高橋徳亮。『瀬川小百年記念誌』
			・4月 石鳥谷中学校校長藤原善夫。
			・6月 石鳥谷中学校が焼失、11月に復旧工事が完了する。
			・12月 NHK盛岡テレビ局が開局する。
1959	昭和34	49	・1月 物見山町営住宅20棟が完成する。
			・1月 石鳥谷町民館が完成する。
			・2月 石鳥谷町農業協同組合の有線放送施設が完成する。
			・4月 各戸に合併記念樹の梅の木が配布される。
			・4月 石鳥谷町長に大森新陸が再選される(2期目)。
			・9月 石鳥谷町議会議員 三又勝彦(～38年8月)。『第9区部落公民館記念誌』
1960	昭和35	48	・5月 瀬川小学校にプールが完成する。
			・7月 第1回石鳥谷町社会福祉大会を町民館で開催する。
			・10月 石鳥谷町商工会が発足する。
			・10月 国勢調査が行われる(町人口16,743人)。
1961	昭和36	47	・10月 世帯番号を設定する。
1963	昭和38	45	・4月 石鳥谷町長に佐藤徳右エ門が当選する。
			・9月 東北本線石鳥谷・日詰間の複線工事が完成し、開通になる。
			・12月 町立石鳥谷病院が完成する。
1964	昭和39	44	・3月 花巻空港が開設される。
			・4月 町内の中学校が統合して、新たに石鳥谷中学校を設置する。
			・4月 瀬川小学校校長高橋俊雄。『瀬川小百年記念誌』
			・9月 東京オリンピック聖火が町内を通過する。

西暦	和 暦	逆算	記 事
1964	昭和39	44	・9月 NHK盛岡放送局、カラーテレビ放送を開始する。
1965	昭和40	43	・4月 八日市保育所が町立となる。
			・8月 県立知的障害者更生施設「松風園」が開設される。
			・10月 東北本線仙台・盛岡間が電化になる。
			・10月 国勢調査が行われる(町人口16,046人)。
			・11月 石鳥谷町合併10周年記念式典が石鳥谷小学校で行われる。
1966	昭和41	42	・4月 母子センターが業務を開始する。
			・4月 県立花巻北高等学校石鳥谷分校(商業科)が設置される。
			・5月 田屋遺跡の発掘調査が行われる。 岩手大学教授草間俊一、奥州大学講師司東真雄の両氏と岩手大学の学生 によって調査が行われた。 畑の中に周囲1メートル、高さ50センチほどの川原石が向かい合って3個 立っていたほか、立石の周辺に掌大の川原石が群在していたのが発見された (縄文中期の竪穴住居跡、配石遺構)。また、主炉と副炉なども検出された。 『いしどりや歴史散歩』『石鳥谷町年表』
			・8月 夏の成人式が始めて行われる。『石鳥谷町の教育』
			・9月 石鳥谷町議会議員 藤原光三(～50年8月)。『第9区部落公民館記念誌』
			・10月 「南部杜氏50年史」が刊行される。
1967	昭和42	41	・4月 石鳥谷中学校が実質統合し、4校舎の生徒を八幡松原の新校舎に 収容する(生徒数960人、23学級)。
			・4月 スクールバスの運転が開始される。
			・4月 大瀬川小学校長高橋清二。『大瀬川小百年記念誌』
			・4月 石鳥谷町長に佐藤徳右エ門が再選される(2期目)。
			・4月 石鳥谷警部補派出所を石鳥谷幹部警察官派出所と改称する。
			・12月 大瀬川地区の水田区画整理事業に着工する。
			・12月 大瀬川公民館の改築工事が完了する。
			・三又医院がこの頃まで大瀬川で開業する。『広報いしどりや』
1968	昭和43	40	・4月 新堀出身の参議院議員谷村貞治が没する(年齢72歳)。
			・4月 光林寺が檀信徒の浄財寄進により宝物庫を建設する。
			・6月 社会福祉法人光林会が精神薄弱児施設「ルンビニー学園」を開園する。
			・7月 郵便物に郵便番号制度が実施される。
			・7月 石鳥谷幹部警察官派出所を石鳥谷警察官派出所と改称する。
			・7月 「大瀬川田屋遺跡」の報告書が町教育委員会より刊行される。
			・9月 石鳥谷駅南方の県道立体橋が竣工し開通する。
			・10月 第1回町民体育祭を石鳥谷中学校で開催する。『石鳥谷町の教育』
			・11月 第1回町民芸術祭が開かれる。
			・12月 石鳥谷芸術文化協会が創立される(初代会長三又勝彦)。

西暦	和 暦	逆算	記 事
1969	昭和44	39	・3月 大瀬川小学校畑分校が廃校になる。『大瀬川小百年記念誌』 大瀬川小学校畑分校歴代教員 八重樫新太郎、根本夏義、佐藤ミツエ、昆野ヨシ、北條健次郎、佐々木長悦郎、菊池ミドリ、照井ナガ、金沢瑞夫、高橋知足、小原道彰、花籠末次郎、小畑カチ、菊池あい子。 畑分校の公立認可以降の入学生数72名(昭和9年～43年)。
			・3月 畑部落の全戸が移住し、部落が解消する(部落の戸数の最大時は16戸)。
			・9月 町内4農協連合会倉庫が完成する。
			・10月 石沢火葬場が完成する。
			・12月 町学校給食センターが完成する。
1970	昭和45	38	・2月 学校給食センターを設置、町内各小・中学校の給食はセンター方式となる。
			・2月 昭和42年から3年続きの豊作により食管会計を圧迫し、政府は本格的な減反政策に踏み切る。
			・4月 大瀬川小学校長花籠良蔵。『大瀬川小百年記念誌』
			・9月 石鳥谷局が電話をダイヤル式に改め、通話を開始する。
			・10月 国勢調査が実施される(町人口15,920人)。『町統計年鑑』
			・10月 岩手国民体育大会の開会式が行われる。
			・10月 皇太子夫妻が来町し、好地荘、松風園を視察になる。
1971	昭和46	37	・12月 大興寺本堂の改築落慶式が行われる。
			・2月 石鳥谷駅南側にご線橋が完成する。
			・3月 県道盛岡藤根線の大瀬川橋架け替え工事が完成する。
			・3月 花巻地区清掃事業組合が設立される。
			・4月 町水道事業所を設置する。『新町発足40周年記念誌』
			・4月 佐藤徳右エ門が県議会議員に当選する。
			・4月 75歳以上に医療費の9割給付を始める。
			・4月 石鳥谷町長に関鋼次郎が当選する。
			・6月 老人ホーム「宝寿荘」が上好地に開設される。
1972	昭和47	36	・12月 町有線放送電話共同施設協会を組織して、町内有線放送が一本化されダイヤル式となる。
			・1月 札幌オリンピックが開催される。
			・4月 大瀬川小学校長玉川ヒサ。『大瀬川小百年記念誌』
			・4月 八日市保育所と大瀬川保育所を統合し、新に町立石鳥谷保育園を長者屋敷に設置する。
			・4月 70歳以上の老人医療費10割給付がスタートする。
			・4月 ルンビニー分校を旧八日市保育園跡に設置する。
			・7月 大瀬川公民館の増築工事が完成する。

西暦	和 暦	逆算	記 事
1973	昭和48	35	・4月 妊産婦医療費10割給付が開始する。
			・4月 社会福祉法人光林会、厚生施設「ルンビニー苑」を開設する。
			・8月 国立岩手山青年の家で宿泊による成人式が行われる。
			・9月 大瀬川小学校創立百年記念行事式典が挙行される。
			・9月 「大瀬川小学校百年記念誌」が発行される(当時の校長玉川ヒサ)。 大瀬川小学校歴代校長 初代菅原愛五郎、2代佐藤定治、3代菅原善五郎、4代中島連八、5代村瀬熊太郎、6代鈴木忠太郎、7代牛崎操城、8代千葉、9代佐藤小次郎、10代藤原浜治、11代晴山吉郎、12代佐藤周右エ門、13代菊池敏、14代松田耕助、15代中島新三郎、16代神山正雄、17代高橋徳亮、18代高橋俊雄、19代高橋清二、20代花籠良蔵、21代玉川ヒサ。
1974	昭和49	34	・4月 花巻北高等学校石鳥谷分校が独立、花北商業高等学校と命名して開校する。
			・4月 母子センターで助産を休止する。
			・11月 大瀬川館並びに大地渡遺跡の発掘調査が終わる。 大瀬川館は郡西の要衝で紫波(斯波)方面に対する押さえの城。古館とも称した。平山城、東西300メートル、南北400メートル、比高30メートル。 東北自動車道の建設のため、馬蹄形の館跡の東半分が発掘調査された。空堀によって区切られた3つの郭からなり、掘立柱建物群跡、明時代の青・白磁、黄瀬戸などが出土した。『角川日本地名大辞典』 大瀬川館跡は東北縦貫道建設のため、昭和49年6月から発掘調査し、同11月7日に全調査を完了した。総面積は14,000平方メートルあり、西より東に1、2、3の3つの郭は計7本の堀をめぐらしている。堀の上幅の最も広いものは10メートルで、多くは3～5メートルあり、深さは最大5・34メートル、中にはメートル未満のものもあり、多くはV字形の薬研堀であった。 掘立柱跡と思われる柱穴群は計3,000の多くを数え、長年月の間に多くの建替の建物を思わせる。穴のうちに2カ所の門柱跡があり、また、堀中に柱穴状のものがあることから、大手・搦手の存在をうかがわせる。 焼土遺構は7カ所検出され、炉の跡もあり、多くの炭化米や炭化材が検出された。出土遺物には白磁・赤絵・黄瀬戸の陶磁器片、砥石・石臼の石製品、金属製品としては刀のつば・刀子・釘等鉄製品・青銅製品のほか、古銭が9種発見された。また、縄文、弥生、土師、須恵の土器片及び石器等館以前の出土品により複合遺跡を思わせる。『大瀬川館発掘調査報告書—瀬川司男』 大地渡遺跡からは縄文中期の竪穴住居跡10棟と遺物包含層、平安時代の竪穴住居跡2棟、近世以降の墳墓などのほか、「中央に広場がある集落」や炭化したトチ・クリの実などが発見された。『いわての遺跡』
1975	昭和50	33	・2月 「たろし滝」の測定を開始する。
			・3月 花巻消防石鳥谷分署の庁舎が完成する。

西暦	和 暦	逆算	記 事
1975	昭和50	33	4月 町長選挙が行われ、関鋼次郎が再選される(2期目)。 ・7月 大瀬川小学校に水泳プールを新設する。 ・10月 国勢調査が行われる(町人口16, 009人)。
1976	昭和51	32	・6月 中央公民館が開館する。 ・6月 石鳥谷町合併20周年記念式典が行われる。 ・6月 町立中央公民館が開館する。 ・6月 町内初の温泉施設「葛丸荘」がオープンする。 ・9月 国道4号線石鳥谷バイパスが開通する。 ・10月 花北商業高等学校の校舎落成式が行われる。
1977	昭和52	31	・3月 南野原地区の土地基盤整備事業が着工する。 ・7月 大瀬川・八日市地区が集中豪雨で田畑の冠水300ヘクタール、流失26ヵ所などの被害を受ける。 ・10月 健康管理センターを新設、母子健康センターと併設になる。 ・11月 東北自動車道一関・盛岡南間が開通する。
1978	昭和53	30	・10月 石鳥谷駅～郵便局間の通送が廃止となる。
1979	昭和54	29	・3月 「石鳥谷町史上巻」を発刊する。 ・4月 石鳥谷町長に関鋼次郎が再選される(3期目)。
1980	昭和55	28	・3月 「あゝわが母校(大瀬川小学校閉校記念誌)」が発行される。 ・4月 石鳥谷・八日市・大瀬川各小学校を廃し、新たに石鳥谷小学校を設置。好地第7地割34番地の1に校舎を新築して開校する。 ・4月 石鳥谷、大瀬川、八日市の各運動公園を設置する。 ・5月 石鳥谷農村勤労福祉センターが開館する。 ・8月 第34回岩手県中学校野球大会で石鳥谷中学校が優勝する(28年ぶりに3回目の優勝に輝く)。 ・9月 第1回石鳥谷酒まつりが中央公民館で行われる。 ・9月 第1回石鳥谷まつりが行われる。 町内婦人会員の手踊り、樽みこし、民俗芸能など好地中央通をパレードする。 ・9月 県道石鳥谷大迫線が国道石鳥谷バイパスにつながる。 ・10月 石沢大正橋線の開通にともない薬師堂踏切を閉鎖する。 ・10月 国勢調査が行われる(町人口16, 237人)。
1981	昭和56	27	・1月 石鳥谷町商工会創立20周年記念式典が挙行される。 ・2月 石鳥谷小学校で校歌と校章を制定し、発表会を行う。 ・3月 健康管理センターの増築工事が完了、開所する。 ・6月 石鳥谷西部地区簡易水道事業が完成し、大瀬川、八日市と八幡地区の一部に給水を開始する。 ・7月 「石鳥谷町史下巻」を刊行する。 ・9月 「大瀬川公民館創立30周年記念誌」を発行する。 ・11月 町立歴史民俗資料館が開館する。

西暦	和 暦	逆算	記 事
1981	昭和56	27	・11月 「護国英霊銘々碑」が五所ヶ森に建立される。
1982	昭和57	26	・4月 町立歴史民俗資料館に収蔵されている酒造用具1,788点が国重要有形民俗文化財に指定される。
			・4月 町総合福祉センターが落成する。
			・6月 東北新幹線盛岡・大宮間が開通する。
			・10月 国営山王海土地改良区農業水利事業の葛丸ダムが本格的にスタートし、起工式が行われる。『町統計年鑑』
1983	昭和58	25	・2月 「南部杜氏」を刊行する。
			・3月 花巻空港にジェット機が就航する。
			・4月 町長選挙で関鋼次郎が当選する(4期目)。
			・10月 南野原地区の県営圃場整備事業が完了し、完工式が行われる。
1984	昭和59	24	・4月 三陸鉄道が開業する。
			・6月 大瀬川運動公園が完成し、完工式が行われる。
			・7月 町有線放送センターが法人組織となり、町有線放送電話農業協同組合連合会として発足する。
			・10月 本町で初めてアメリカ人教師、ニルス・サムエルズ先生を招く(石鳥谷中学校に着任する)。
			・10月 石鳥谷郵便局が下町から石沢通に移転し、業務を始める。
1985	昭和60	23	・3月 東北新幹線新花巻駅が開業する。
			・4月 石鳥谷小学校が「40人学級」の指定を受ける。
			・6月 石鳥谷町合併30周年記念式典が町立中央公民館で行われる。
			・9月 「大瀬川家族写真集」が刊行される。
			・10月 国勢調査が行われる(町人口16,764人)
1986	昭和61	22	・6月 「大瀬川さんさ踊り」が町無形民俗文化財(現花巻市文化財)に指定される。
			・8月 新一の留橋が完成する。『町統計年鑑』
			・10月 アメリカ合衆国バーモント州ラットランド市と姉妹都市を締結する。
1987	昭和62	21	・2月 石鳥谷町長選挙で大竹義文が当選する。
			・4月 国鉄が分割、民営化する。
			・8月 国勢調査が行われる(町人口16,733人)。
1988	昭和63	20	・1月 「大瀬川奴踊」が町無形民俗文化財(現花巻市文化財)に指定される。
			・2月 戸塚森スキー場がオープンする。
			・3月 町内4農協が合併、「石鳥谷町農業協同組合」がスタートする。
			・3月 記録映画「南部杜氏」が完成する。
			・10月 在京石鳥谷町人会が設立され、総会・祝賀会を東京で開催する。
			・10月 葛丸ダム本体盛立工事が完了する。
			・11月 国営山王海農業水利事業の山王海導入トンネルが貫通する。
1989	昭和64	19	・1月 昭和天皇が崩御する。

西暦	和 暦	逆算	記 事
1989	平成1	19	・1月 元号が「平成」になる。
			・4月 消費税が導入される(3パーセント)。
			・10月 石鳥谷小学校が「創立10周年記念誌」を発行する。
1990	平成2	18	・4月 石鳥谷斎場が完成する。
			・5月 石鳥谷郵便局で電報配達が廃止される。『石鳥谷郵便局開局100年のあゆみ』
			・10月 国勢調査が行われる(町人口16,655人)。
1991	平成3	17	・2月 石鳥谷町長に大竹義文が再選される(2期目)。
			・2月 「大瀬川神楽」が町無形民俗文化財(現花巻市文化財)に指定される。
			・3月 生産物直売所「ビバハウスいしどりや」が完成する。
			・4月 石鳥谷郵便局が開局100年になる。『石鳥谷郵便局開局100年のあゆみ』
			・5月 大瀬川構造改善センターが完成する。
			・5月 消費税が5パーセントとなる。
			・6月 東北新幹線東京駅へ乗り入れになる。
			・7月 特別養護老人ホーム「いしどりや荘」が落成する。
			・11月 親子ダム葛丸ダムが完成する。
1992	平成4	16	・3月 板垣亮一が「おふくろの昔話」を刊行する。
			・4月 町商工会館が完成する。
			・9月 学校週5日制が月1回実施される。
			・9月 南部杜氏伝承館、酒匠館が完成、記念式典が行われる。
1993	平成5	15	・4月 「道の駅」の指定をうける。
			・5月 町立図書館が新築開館する。
			・6月 町在宅介護支援センターを特別養護老人ホーム「いしどりや荘」に開所する。
			・7月 道の駅「石鳥谷」南部杜氏の里が開所する。
			・8月 板垣種善が「汗の軍隊手帳」を刊行する。
			・10月 皇太子夫妻が特別養護老人ホーム「いしどりや荘」を視察になる。
1994	平成6	14	・4月 食糧管理法が廃止され、新食糧管理法が施行されて飯米が自由化される。
			・5月 屋内ゲートボール場「すぱーく石鳥谷」がオープンする。
			・5月 ケアハウス「千鳥苑」が開所する。
			・6月 葛丸湖畔に宮沢賢治の歌碑が建立される。
			・6月 町役場新庁舎が落成し、業務を開始する。
			・10月 石鳥谷町40周年・石鳥谷役場庁舎落成記念式典が行われる。
1995	平成7	13	・1月 移動図書館車「ポラーノ」の運転を開始する。
			・2月 町長選挙で大竹義文が当選する(3期目)。
			・3月 町立石鳥谷アイスアリーナがオープンする。

西暦	和 暦	逆算	記 事
1995	平成7	13	・12月 板垣寛が「葛丸の里に生きる」を刊行する。
1996	平成8	12	・6月 花巻空港に福岡便が開設される。 ・9月 ふれあい運動広場が完成する。
1997	平成9	11	・3月 葛丸川溪流上流「一の滝」付近にポケットパークが完成する。 ・5月 大瀬川地区で大規模な山林火災が発生し、紫波町まで延焼する。 両町合わせて焼失面積304ヘクタール、被害総額7億6400万円。 ・6月 ふれあい運動公園の使用開始式が行われる。 ・10月 大瀬川地区山林火災の被災地で町内小中学校の児童・生徒による 植林奉仕活動が実施される(町内小学校6年生209人、石中3年生222人の計 431人)。
1998	平成10	10	・1月 第53回国民体育大会冬季大会(いわて銀河国体)スケート競技会 フィギュア競技がアイスアリーナで開催される。 ・6月 大瀬川地区山林火災の被災地で「ボランティアによる森林づくり」を行う (小中学生などボランティア1,500人による苗木植栽)。 ・7月 町国際交流センターが完成する。 ・12月 板垣寛が「賢治先生と石鳥谷の人々」を刊行する。
1999	平成11	9	・2月 町長選挙が行われ大竹義文が当選する(4期目)。 ・3月 町国際交流協会が設立される。 ・8月 平成11年度全国高等学校総合体育大会女子ソフトボール競技が ふれあい運動公園で開催される。 ・7月 石鳥谷町農業伝承館が開館する。
2000	平成12	8	・3月 国道4号石鳥谷バイパス一部4車線が完了する。 ・4月 介護保険制度がスタートする。 ・4月 JR石鳥谷駅公共地下道が開通する。 ・7月 石鳥谷病院を廃止し、町立医療センターを旧町役場跡に新築する。 ・7月 町民健康バスの運行が開始される。 ・8月 ごみポイ捨て禁止条例が施行される。 ・10月 国勢調査が行われる(町人口16,521人)。 ・10月 大瀬川公民館建築のため、田屋遺跡を発掘調査する。
2001	平成13	7	・4月 家電リサイクル法が施行される。 ・10月 保健センターの使用を開始する。 ・10月 山王海・葛丸親子ダム工事が完了する。 ・10月 葛丸ダムふれあい駅伝(山王海～葛丸ダム間)が行われる。 ・11月 「大瀬川公民館創立50周年記念誌」が発行される。
2002	平成14	6	・4月 完全学校週5日制が開始される。 ・5月 宝峰(株)が廃業する。 ・6月 菅原昭造が「ふるさとに生きる」を刊行する。 ・11月 釜石自動車道東和・花巻間が開通する。

西暦	和 暦	逆算	記 事
2003	平成15	5	・2月 町長選挙が行われ高橋公男が当選する。 ・4月 県立花北商業高等学校が県内初の総合的専門学校「花北青雲高等学校」として開校する。
2004	平成16	4	・4月 町内小学校で2学期制がスタートする。 ・4月 家庭ごみの野外焼却が禁止される。 ・5月 大瀬川・紫波町片寄地区で山林火災が発生、両地区で26、1ヘクタールを焼失する。 ・7月 花巻地方合併協議会を設置する。 ・9月 花北青雲高校創立30周年記念式典が行われる。
2005	平成17	3	・4月 町立石鳥谷保育園を町保育協会に移管する。 ・8月 町合併50周年記念夏期巡回ラジオ体操みんなの体操会を開催したほか、集い・ふれあい・にぎわいまつり、石鳥谷夢まつりの3事業を一挙に開催する。 ・9月 石鳥谷町合併50周年記念式典が町立中央公民館で行われる。 ・10月 全国スポーツ・レクリエーション祭スポレク岩手2005女子ソフトボール大会がふれあい運動公園で開催される。 ・12 石鳥谷学童クラブ館が石鳥谷小学校に開所する。
2006	平成18	2	・1月 花巻市、大迫町、石鳥谷町、東和町が合併して「花巻市」となる。 ・2月 初代花巻市長に大石満雄が当選する。
2007	平成19	1	・4月 振興センターを開所する。
2008	平成20	0	・2月 たろし滝の測定が行われる(34回目の測定)。